LIXIL TOEX

数奇屋門・ニュー和風門　取付説明書

●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
⚠警告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
⚠注意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

＜施工の前に＞

⚠注意

●製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
●正しく施工，組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
●施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
●設置場所の確認をしてください。
・施工場所に寸法的に正しく納まるか確認してください。
・施工場所の気象条件（風、雪など）に合った製品かどうか確認してください。積雪が20cm（比重0.3）を超えた場合は、雪降ろしが必要なため、対応が不可能な場所には施工しないでください。
・建物の屋根からの雪の落下を、直接受けない位置かどうか確認してください。
・強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上などの施工は避けてください。
・給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。排気による塗装劣化・剥離（はくり）のおそれがあります。
●製品の改造は絶対にしないでください。
●基礎は、本体取付に十分な強度を確保してください。強度が確保されていない場合、倒壊による事故の原因になります。
●基礎は、平らさと水平レベルを確保してください。著しい凹凸があると取付けられない場合があります。
●基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めていますが、現場によって（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。基礎の量が十分確保されていない場合、倒壊による事故の原因になります。
●寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてくいださい。
●基礎は、施工日の5日前を目安に準備してください。施工日までに型枠をはずし、墨打ち（位置だし）を行ってください。
●基礎など、商品以外の内容による事故及び不具合などについては、一切保証できません。その他免責事項については、保証書およびカタログを確認してください。

1. 設置の流れ

工事店様にて	納入前確認	1）4t車進入可能な場所であること。 （狭い通路の場合は人力による搬入となる場合があります。事前にご連絡下さい。） 2）クレーン作業が可能であること。〔電線、植物、既設物等〕 3）下記の基礎打設済みであること。 4）納品当日に門の設置が可能であること。 5）門の設置が可能な状況であること。 （敷地・境界線・家屋・既設物・その他障害物との関係） 6）荷受時、作業完了時に必ず立会いをお願い致します。
	基礎打設	「2 基礎寸法図」にそって基礎を打設します。 基礎は、地域・場所により地耐力・凍結震度が異なります。ご確認下さい。

ポイント

●基礎打設は、据付日より5日間ぐらい前もって準備してください。
●墨打ち（位置だし）を施して下さい。（据付場所の指示をして下さい。）

TOEXにて	数寄屋門の設置	半製品　完成品の数寄屋門を専用車で現地まで納品します。 クレーンで吊り上げ据付位置に仮置きします。
	水平垂直調整	水平器や下げ振りなどを使い門本体を水平・垂直に調整します。
	敷居石　建具セット	敷居石芯と柱芯を合わせます。 柱と敷居石の隙間が左右均等になるように設置します。 建具をセットします。建具の傾き、隙間調整を行い、鍵の施錠・開錠調整を行います。
	袖門の据付 （袖門タイプのみ）	袖門専用敷居石を設置し、門本体柱側面にボルトにて固定します。
	鉄骨ベース固定	全ての調整が終了後、鉄筋と鉄骨ベースを溶接固定、又はボルト固定します。 現場の責任者の方に確認して頂きます。

ポイント

●必ず納品後、立会いの下、確認お願い致します。

工事店様にて	最終確認と説明	現場の責任者の方に、納入作業者と一緒に確認して頂きます。 建具の鍵、及びサービスバックをお受け取り下さい。
	正式固定と瓦葺き	ご確認後、鉄骨ベース・敷居石をモルタルにて固定します。 モルタル固定は早めに行ってください。（調整後の現場管理にご注意ください。） 瓦葺き工事が必要な場合は、モルタルが固まったのを確認してから行ってください。
	土間及び壁の仕上げ	ご希望の仕上げ材にて土間および壁を仕上げます。

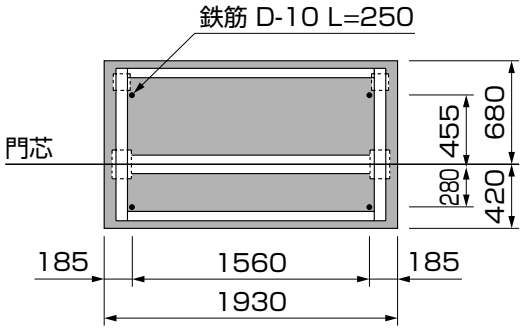
ポイント

●『瓦葺き』は取説「数寄屋門 -屋根瓦施工説明書-（Z014）」を参照してください。

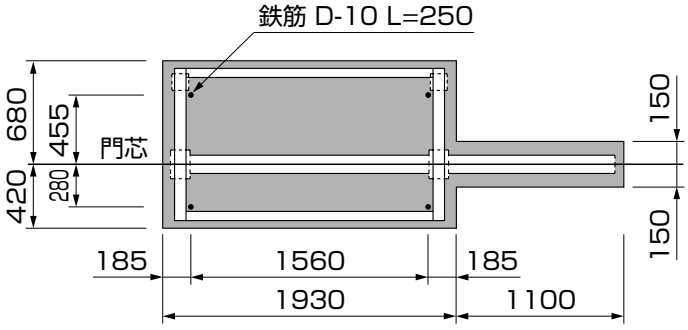
2. 基本寸法図

2-1 数寄屋門

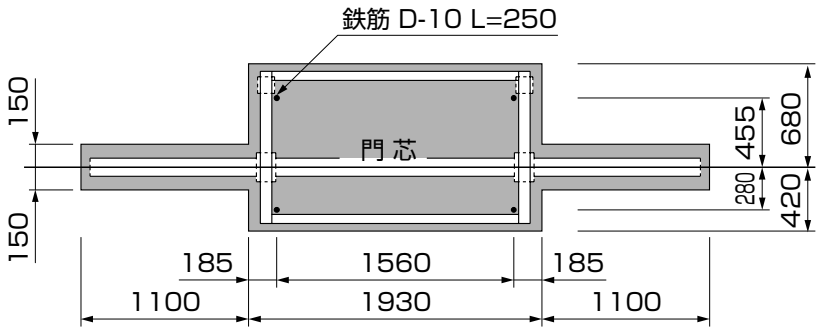
（1）白木2型　民芸2型（ふきよせ型）



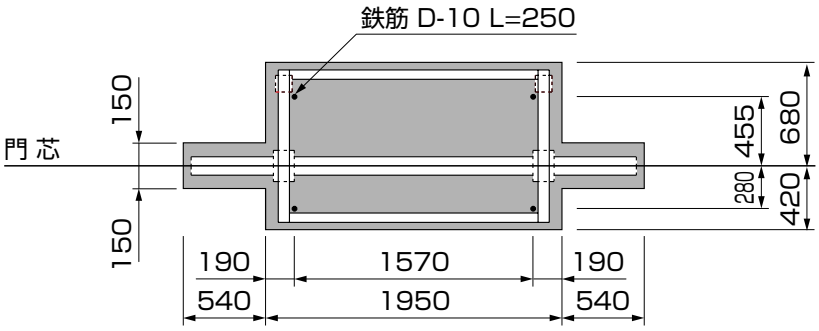
（2）白木2型　民芸2型（片袖）



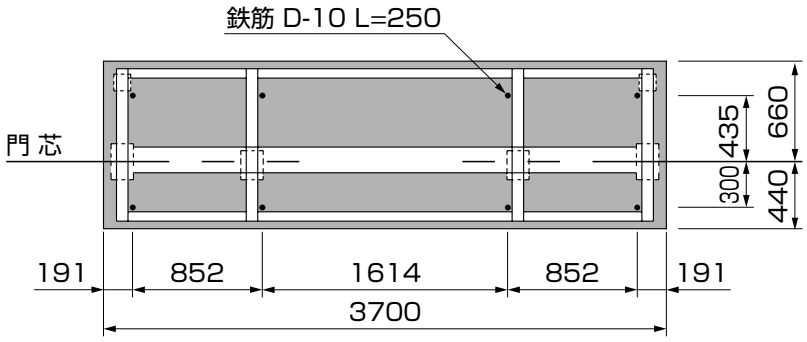
（3）白木2型　民芸2型（両袖）



（4）白木3型



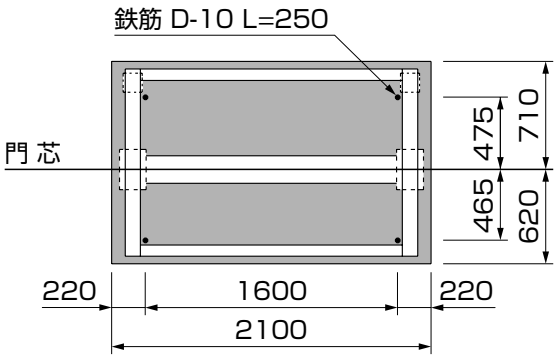
（5）白木5型　民芸3型



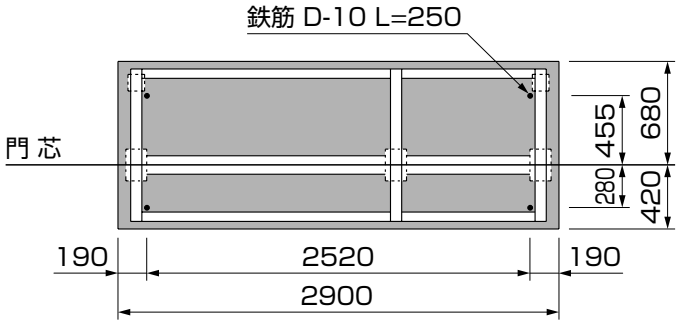
B071_200712A

2. つづき

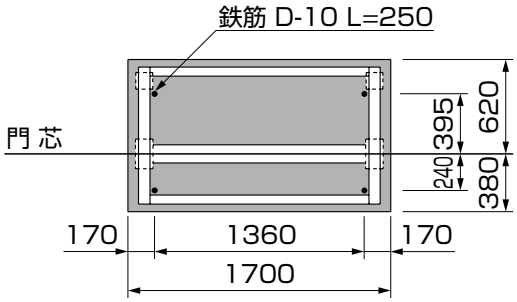
(6) 数寄屋大門冠木（かぶき）型



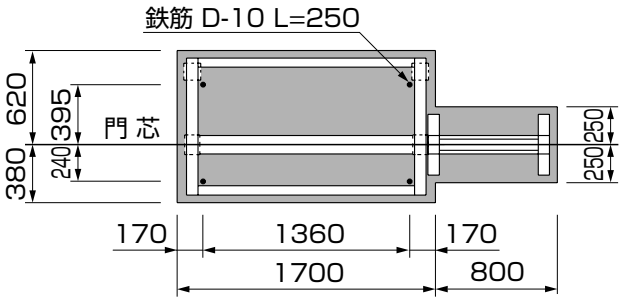
(7) 冠木（かぶき）2型



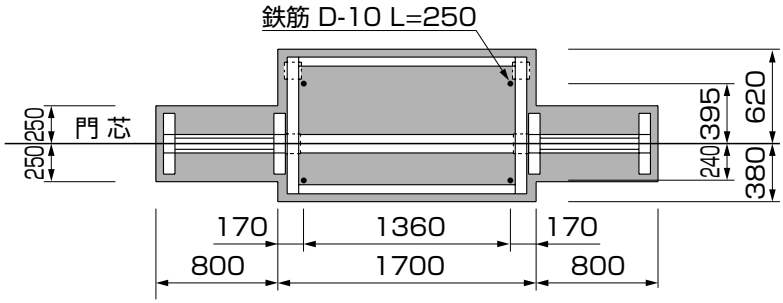
(8) 特選3型



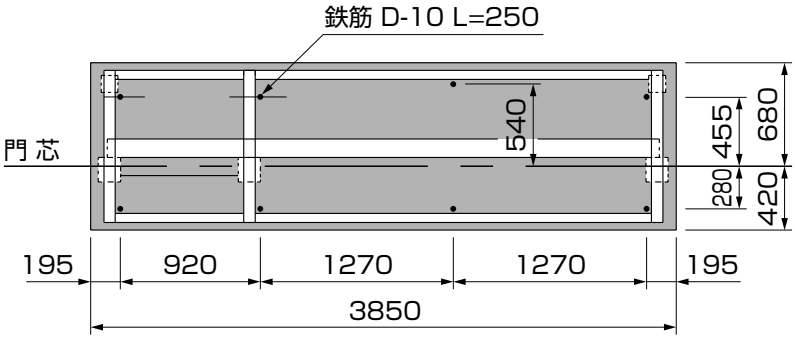
(9) 特選3型　片袖



(10) 特選3型　両袖

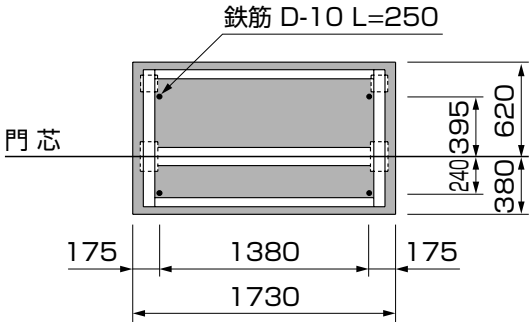


(11) 車庫門

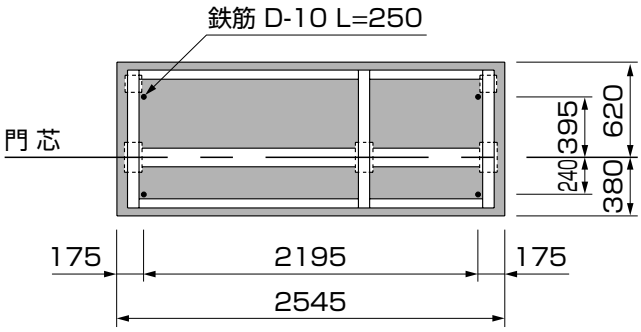


B071_200712A

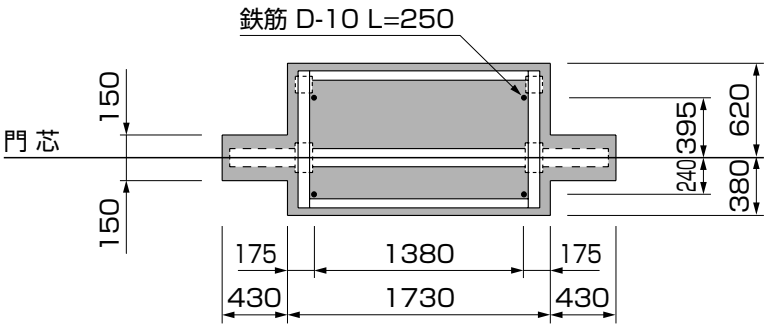
（12）1型



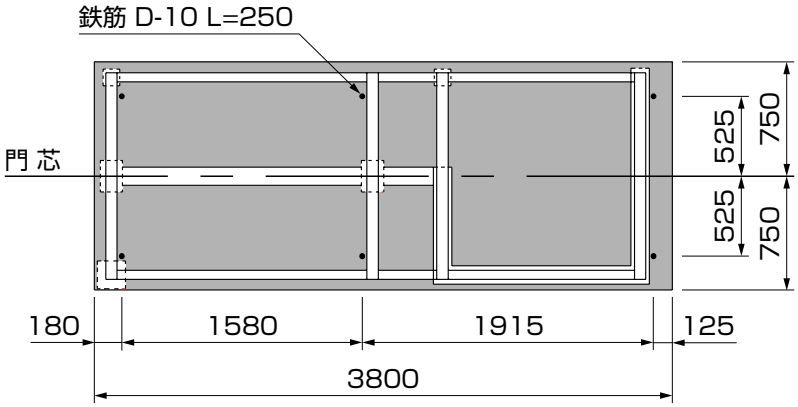
（13）1型　くぐり付き



（14）1型　両壁付き



（15）まちあい付き　くら付き

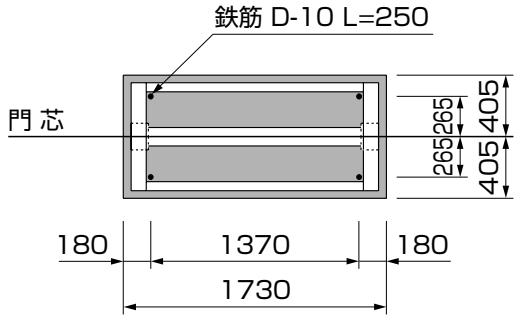


B071_200712A

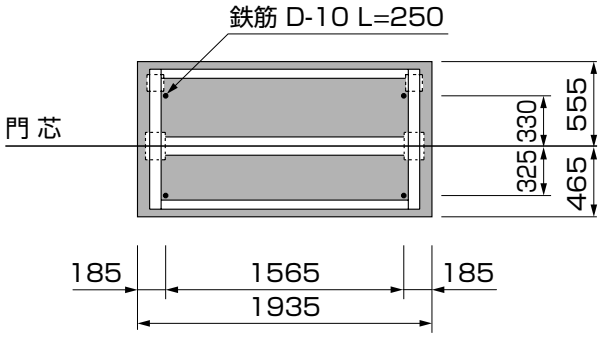
2. つづき

2-2 ニュー和風門

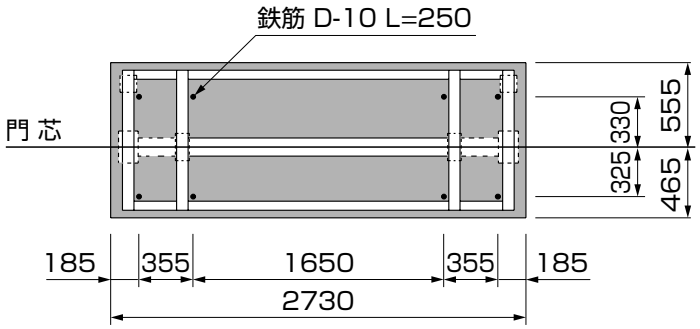
(1) 1型



(2) 2型

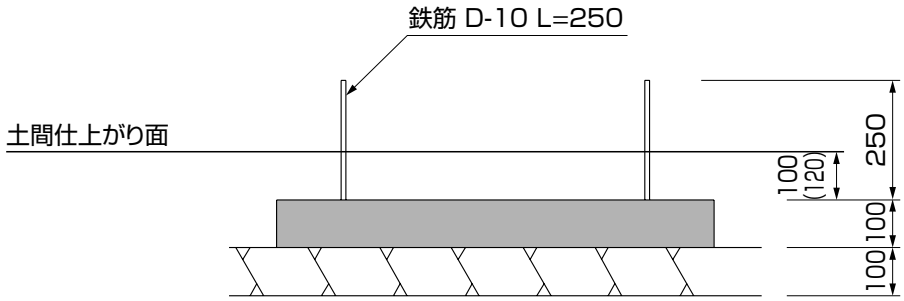


(3) 3型



2-3 基礎横寸法

※数寄屋門・ニュー和風門の基礎は『車庫門』を除く全ての基礎において共通です。
(　)内寸法は『車庫門』の場合の寸法です。



ポイント

- 基礎コンクリートは、土間仕上がり面よりも100mm（120mm）下がりで打設してください。
- 地域・場所により地耐力・凍結震度が異なります。

B071_200712A

3. 納入前確認〈工事店様にて〉※配送にあたり、下記の内容を確認してください。

※屋根門の設置に際して現場納入前に下記の事項を確認してください。

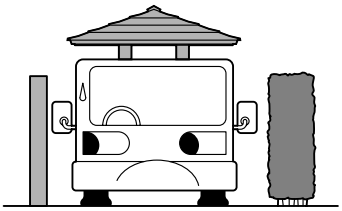


図3-1

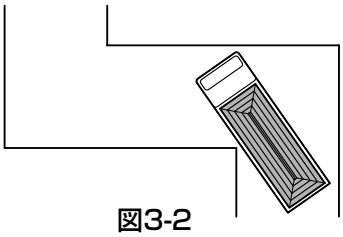


図3-2

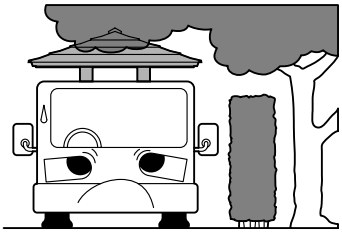


図3-3

ポイント

●数寄屋門はチャーター便にて現場に納入するため、トラックに通用口が確保できるよう、まず①・②を確認してください。

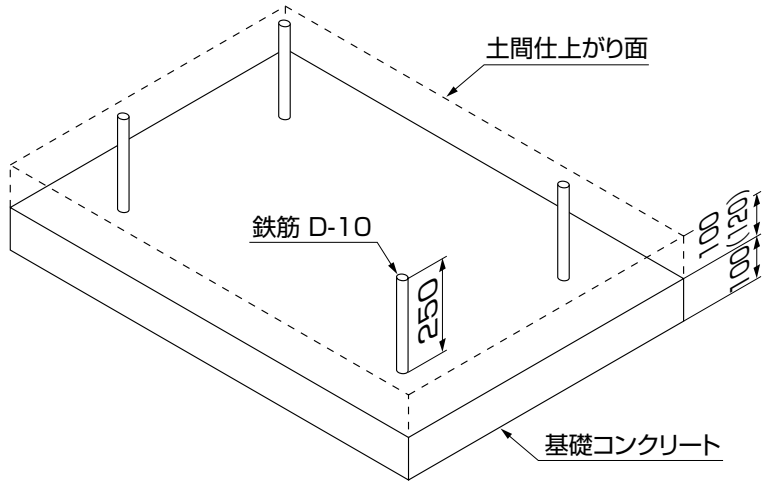
①道幅が狭くないか確認してください。（3m以上あるか）（図3-1参照）
②道が狭く、クランクになっていないか確認してください。（図3-2参照）

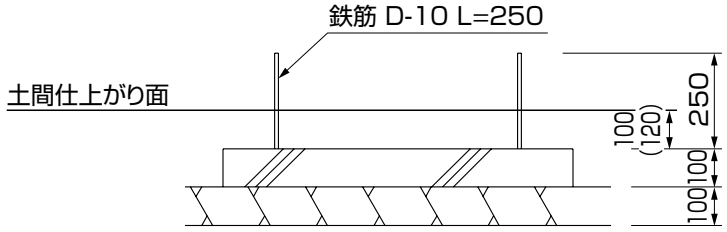
補足

●さらに、現場での作業をスムーズに行えるよう、③～⑤を確認してください。

③上部（4m以内）に障害物はないか確認してください。（電線･引込み線･橋･高木の枝や葉など）（図3-3参照）
④クレーンの取り回しが可能か確認してください。（電線･建物･植栽などが引っ掛からないか確認してください。）
⑤基礎および門柱がしっかり打ってあるか確認してください。

4. 基礎打設〈工事店様にて〉※（　）内寸法は『車庫門』の場合の寸法です。



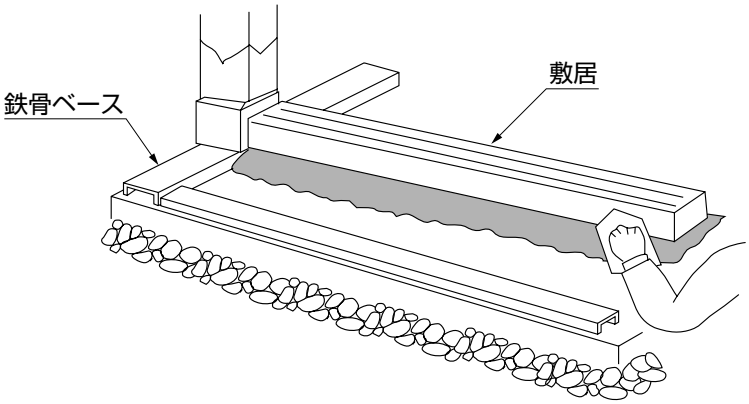


①基礎寸法図を参照して、基礎を打設してください。このとき、鉄筋は寸法通りに設置してください。

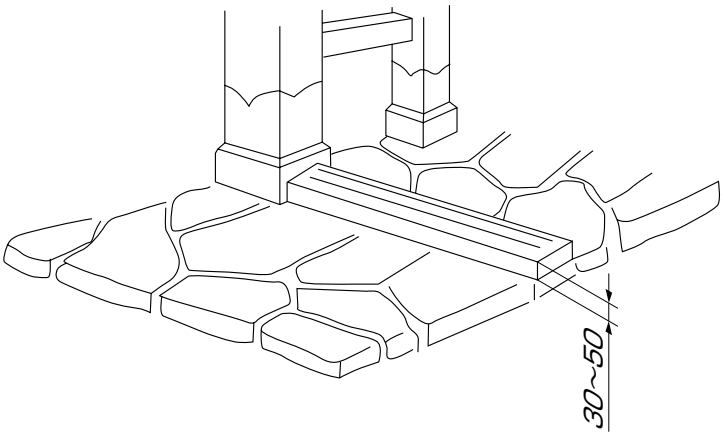
ポイント

● 基礎コンクリートは、土間仕上がり面よりも100mm（120mm）下がりで打設してください。
● 地域・場所により地耐力・凍結震度が異なります。

5. 正式固定と土間仕上げ



①鉄骨ベース、敷居石をモルタルにて固定します。
②瓦葺き工事は、モルタルが固まった事を確認し、取説「数寄屋門 -屋根瓦施工説明書-（Z014）」を参照して瓦を葺きます。



③柱及び敷居周りの水はけを考慮して、土間仕上げを行ってください。

補 足

●土間仕上げ面と敷居は30～50mm出すことをお勧めします。

取説コード
B071

YAA573293B
200712A_1042
201210C_1042